

『エスユース農園が始まるよ！』

久米 昂佑（大学3年）

【エスユースとは？】

まず、私が代表を務める小児がん当事者団体、『エスユース』について紹介します。

エスユースは、親組織であるNPO法人の『エスピューロー』から生まれました。2011年に設立し、これまでの活動としては、『エスピューロー』が毎年夏に「小児がん・脳腫瘍全国大会」というイベントを行う際に、小児がん経験者である子どもやそのきょうだいたちと、ともにレクリエーションや周辺の見学を行う「サマースクール」をお手伝いさせてもらったり、その様子をFacebookにアップしたりしてきました。

【エスユース農園とは？】

次の活動としまして、エスユースの代表である久米昂佑の地元の千早赤坂村で近所の方に土地を借り、「エスユース農園」として、小児がんの当事者の方とともに野菜や果物を育てていきたいと思っています。今はその「エスユース農園」としての、土壤づくりを進め、看板を制作しているところです。

「エスユース農園」では、主に小児がんの経験者の方たちとともに、野菜や果物を植え、育てて収穫し、利用することで協働による学びはもちろんのこと、将来的に生きていくためのスキルや知識、体力・気力の向上などにつながっていくことを期待しています。

【活動内容】

工程① 土地を作る

まずは、畑の中に生えている雑草を芝刈り機で刈り取る作業から始めました。と言っても芝刈りの作業は、父、祖父、近所のおじさんを中心に進んでいきました。私も芝刈り機を使い草を刈ってみましたが、手伝いになるどころか足手まといになってしまいました(笑)

次に、刈り取った雑草を数か所に集め、最終的に一か所に捨てるという作業を行いました。単純作業ですがこれだけの広さがあると大変な作業でした。

before

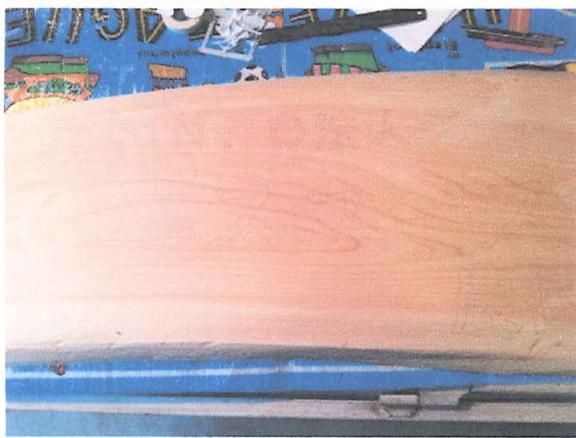


after



この写真では、雑草を刈り終え、畑のあぜ道（歩くための道）を作ったところです。これがあることで、畑の中にメリハリがついて歩きやすくなりました。

工程② 看板作り

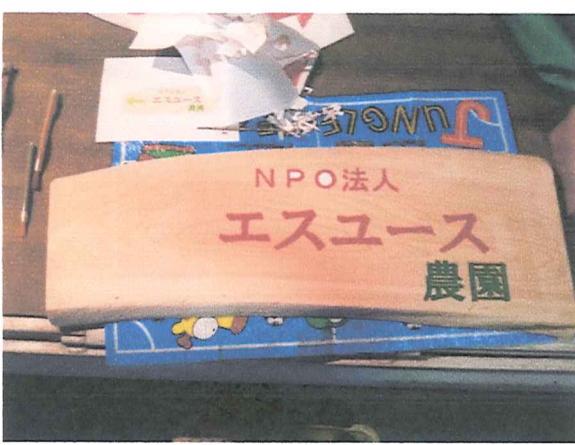


これはエスユース農園の看板を制作しているところです。

この板は、家の近所の建設会社から祖父がもらってきた板です。エスユース農園の看板に使うことにしました。



パソコンソフト・^{きやど}CADを使い、看板となる板の寸法を測りソフトに入力した後、パソコン上で文字のバランスを調整して、印刷したものを張り付けました。(芸大生の弟にほとんどやってもらいました(笑)感謝、感謝です！)



ペンキを塗り、紙をはがしたのが右の写真です。看板らしい素晴らしいものができたと思いました。(感激)

工程③ 完成！



これに看板を掲げるようにしておこうと思っています。祖父が採ってきてくれ、私と祖父でこの木にやすりをかけ、つるつるに仕上げました。



看板と軸を合わせたイメージがこちらです。これを見たら、これから農園での活動をすることに対する実感がわいてきて、わくわくしました。

【感想と今後の展望】

エスユース農園を作っていくなかで、私が思ったこととしては、「看板一つ作ってもらうのにも、看板となる木を探してしてくれた人、その木にやすりをかけてくれた人、看板に字を書いてくれた人、その字に色をつけてくれた人など、一つと思われるような作業にもたくさんの人の協力が必要なのだな」ということです。同様に、土地を借りた後も、芝刈り機を使っての草刈りをしてもらい、田を歩きやすいように道を作ってもらったり、入口を広げてもらったり、パイプを設置してもらったり、タンクを用意してもらったりと、とても私一人ではなしえなかつた作業は、たくさんの方の協力で見る見るうちになされきました。これらを見ていると「自分はなんて恵まれた環境にいるのか。こんな幸せが病気をする以前にあつただろうか」と思います。同時に「これだけ大変なことをやっていただけるのだから私もそれに応じて自分にできることを考え、責任を担う活動をしていかなければ」と強く思いました。

私は小児がんという大病を発症し、失ったものはたくさんあると思っていますが、得たものや日常的な日々にも幸せを感じることができるようになったなど、病気を経験できたことで、未来へ進む力を得た部分も確かにあると感じています。

この農園での活動を通じ、「感謝の種」を植え、「小児がん経験者の未来」を育んでいけるような活動をしていきたいです。